

# 2021年10月教会便り 美唄～砂川

主任司祭 ナルチゾ神父

## 2日 守護の天使

カトリック教会は、昔から聖書に基づいて、神は天使を造られ、一人ひとりを守っていると信じてきました。「あなたには災難もふりかかることがなく天幕には疫病も触れることがない。主はあなたのために御使いに命じてあなたの道のどこにおいても守らせてくださる。彼らはあなたをその手にのせて運び、足が石に当たらないように守る。」

(詩編91.10-12)など、聖書に守護の天使のことが記されています。

また、それぞれの人に守護の天使がいるということは、イエスの教えの中にも見られます。「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい。言うておくと、彼らの天使たちは天でいつもわたしの天の父の御顔を仰いでいるのである」(マタイ18.10)。また、天使はイエスがゲッセマネの園で苦しまれたときに、イエスを力づけた(ルカ22.43)。このように天使を人間の保護者にしたことは、神の愛のしるしといえます。



## 10月4日 アッシシの聖フランシスコ



聖フランシスコ(アシジ)修道者フランシスコはよりいっそうキリストの言葉に従い同志を集め、清貧と愛の生活を続けて多くの人びとを感化し、当時の乱れた教会を改善していった。その後ローマに行き、教皇インノチェンツイオ3世から許可を得て、1209年に「小さき兄弟会」、後の「フランシスコ会」を創立しました。すべての被造物をとおして与えられる神の恵みを悟ったフランシスコは、神に感謝と賛美をささげて『太陽の賛歌』を作りました。彼の物語は、『小さい花』という本に伝えられている。また、彼はクリスマスの夜に馬小屋を飾って祝った最初の人であり、その習慣を広めました。(Laudate)

## 10月の主な典礼・ミサ時刻

日	曜	典礼暦	砂川	美唄
3	日	年間第27主日 全ての命を守るためのキリスト者の祈り P4 平和を願う	9:00ミサ 先読:高塚 第1:安藤 第2:室井 典礼聖歌: 高塚/古野 オルガン:野呂	11:00
10	日	年間第28主日 2021年カトリック大会の祈り	9:00ミサ 先読:多田 第1:間野 第2:古野 典礼聖歌: 千田/多田 オルガン:多田	11:00
17	日	年間第29主日 2021年カトリック大会の祈り	9:00ミサ 先読:高塚 第1:岡本 第2:千田 典礼聖歌: 三上夫妻 オルガン:野呂	11:00
24	日	年間第30主日 2021年カトリック大会の祈り	9:00ミサ 先読:野呂 第1:西川 第2:本田 典礼聖歌: 千田/安藤 オルガン:多田	11:00
31	日	年間第31主日 2021年カトリック大会の祈り	9:00ミサ 先読:多田 第1:三上朋 第2:安藤 典礼聖歌: 野呂/間野 オルガン:野呂	11:00

◆平日のミサ ○砂川教会:月曜日～金曜日 6:30、土曜日10:00 ○美唄教会: 金曜日10:30

## ◆今月の霊名記念日の方…おめでとうございます(敬称略)

○砂川教会		○美唄教会	
1日 幼き聖テレジア 間野千鶴枝、千田玲子、室井寿子、高塚雅子	1日 幼き聖テレジア 蓮井 愛、吉村知江子	1日 マリアテレジア 小山セツ	
4日 聖フランシスコ(アシジ) 千田孝嗣、高塚 諭	4日 聖フランシスコ(アシジ) 小西優、米通祐大、船野奨、吉田淳一	4日 聖フランシスコ(マリア) 東 小夕希	
29日 聖ナルチツ ナルチゾ神父様	24日 聖ラファエラ 小川亜沙子		

## ◆砂川教会 お知らせ

- ・10月3日13時30分から旭川五条教会でカトリック大会ミサを行います。  
YouTubeによるライブ配信も行います。配信アドレス <https://youtu.be/QRxULzOP4og>
- ・10月はロザリオの月です。毎週日曜日に8:30からロザリオを唱えます。
- ・ロザリオ会は 8日(金) 午後7:00～ 信徒会室にて。
- ・毎週水曜日 10:00～ 聖書に親しむ会を実施しています。
- ・16日(土)は幼稚園の園児作品展があります。ミニバザーはありません。

花当番	
2日(土)	野呂
9日(土)	千田
16日(土)	多比良
23日(土)	安藤
30日(土)	室井

## ◆その他 24日世界宣教の日(献金)

# カトリック幼稚園

千田 裕子



私は幼児洗礼なので、特に何も考えることなく神様を身近に感じて生活してきました。でも生まれ育った町には教会がありませんし、幼稚園も町営でしたからもし幼児洗礼を受けていなかったら、きっと私は信者になるお恵みには預かれていなかったでしょう。カトリックの学校ということで天使短大に進み、在学中300名を超える学生と学びを共にしましたが、信者は私一人だけでした。

日本社会の中では、カトリックに触れる機会はとても少ないです。更に、昨今の日本は宗教離れが起きているといわれ、カトリックばかりでなく仏教でも神道でもない無宗教の様な人が増えています。仏教にしても自分の家のお寺がわからず、節目節目のおまいりどころか葬儀すら故人の好きだった音楽を流したりして済ませるというのです。

神父様は、宗教とは「人の生きる道」と説いてくださいます。「人はいかに生きるべきか」根本はどの宗教にも同じものが流れているといわれます。命を与えられたことに感謝し、すべてのことに感謝して自分に与えられた力を発揮して社会に貢献する。神が与えてくださったものに何一つ無駄なものはない。しかし、これが薄れていったとき、人は自分の欲にのみ走り、損か得かだけの判断で行動するようになります。ましてAIが発達し、大人ばかりでなく子どもたちも電子機器の中に埋もれて生活しているこのごろです。

そのような中であって、カトリック幼稚園の存在はますます重要なものとなっていくでしょう。

3歳というまだ穢れの無い純真無垢な子どもたち。その心の中に、神様に愛されて生まれてきたこと。家族やいろいろな人に愛され守られて大きくなってきたこと。神様がくださるたくさんの物のおかげで自分たちの生活が成り立っていること。このようなことが日々の保育を通して子どもたちの心の中にしみ込んでいきます。元気に目覚めたことに感謝し、お友達と楽しく遊べることに感謝し、お母さんの作ってくれるお弁当に感謝し、あらゆることにありがとうと言えるようになります。けんかや失敗をした時にはごめんなさい。そしてそれをいいよと許せるようになり、自分でどうしてもできないことは、お願いしますと人に頼めるようになります。人との関わり大切さ、人のために何かができる喜びも身につけていきます。

これらは、小学校、中学校と成長するうちに表面的には薄れてしまっても心の奥底にはしっかりと根付いていて、人として大事な判断をするときの指標となっていくことでしょう。

「三つ子の魂百まで」。

今の日本で子どもたちに人として最も大事な生き方を教えるところはカトリック幼稚園しかない。と、幼稚園に勤めさせていただいて強く感じていることです。